

令和7年10月23日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和7年9月分

～令和7年9月 データから見た業界の動き～

令和7年10月23日 発表

収益状況・景況感D.I値が低下
業種により価格転嫁・価格交渉の進展に差



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年10月23日 発表

収益状況・景況感D.I値が低下 業種により価格転嫁・価格交渉の進展に差

■ 概 況

9月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高	▲4 ポイント	(前年同月比 2 ポイント ㇓)
収益状況	▲6 ポイント	(前年同月比 2 ポイント ㇓)
景況感	▲18 ポイント	(前年同月比 8 ポイント ㇓)

となり、売上高は前年同月を上回ったが、収益状況・景況感は下回った。

業種別で、製造業では…

売上高	▲15 ポイント	(前年同月比 5 ポイント ㇓)
収益状況	▲15 ポイント	(前年同月比 ±0 ポイント)
景況感	▲30 ポイント	(前年同月比 10 ポイント ㇓)

売上高D.I値は改善したものの(+5ポイント)、骨材・石工品等製造業では地域や製品によって需要量に大きく差があり、「昨年より売上は増加したが、ピーク時の6割程度にとどまる(木材・木製品製造業)」「地金価格の上昇で製作本数が減少し売上悪化(貴金属・宝石製品製造業)」などの報告からも製造業全体として回復傾向にあるとはいえない。

また景況感について、「住宅業界は現状、明るい兆しは見られない(家具製造業)」「半導体業界(AI関連以外)や半導体製造装置が低迷(電気機械部品加工業)」「材料費の高騰により商品を思うように製造できない(貴金属・宝石製品製造業)」を例に先行きを不安視する報告が多かった(景況感D.I値▲10ポイント)。

価格転嫁については、「原系の価格や入荷状況が改善され価格転嫁も進んでいる(織物業)」「11月より一部商品の価格改定を実施する(菓子製造業)」など、一部の業種で進展が窺えた。

一方、非製造業では…

売上高	+3 ポイント	(前年同月比 ±0 ポイント)
収益状況	0 ポイント	(前年同月比 3 ポイント ㇓)
景況感	▲10 ポイント	(前年同月比 7 ポイント ㇓)

「金価格は¥20,000/gに近づき、プラチナも¥8,800/gと高止まりしている(ジュエリー製品卸売業)」を例に、非製造業全体で仕入原価の高止まりが続いている中で、「契約金額が実際の労務単価に見合っていない(警備業)」「燃料価格が高止まりしている一方で、運賃は据え置かれている(道路貨物運送業)」など、取引先との価格交渉も難航している。加えて、12月から山梨県の最低賃金が1,052円(+64円)に引き上げられるものの、賃上げの原資となる収益確保に苦慮する事業者も多く、収益状況D.I値が低下した(▲3ポイント)。

また「人員不足が改善されない限り今後の見通しも良くない(道路旅客運送業)」や、建設業からは契約の不調、契約金額が折り合わず延期された物件があるといった状況が報告されるなど、人手不足や長引く資材高騰から先行きに対する懸念が広がっており、景況感D.I値が低下した(▲7ポイント)。

そのほか石油業界では、議論が進んでいるガソリン暫定税率廃止について「税額分25.1円の引下げに伴い在庫調整や価格設定など懸念事項が多い(ガソリンスタンド)」と、政府の動向を注視している。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています。お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製 造 業

食 料 品 (洋菓子製造業)	前年同月と比べ売上は93.9%となった。アイスクリームの販売が伸び悩んだが、その他のカテゴリーは堅調に推移した。チョコレートや卵など原材料価格の高騰が利益を圧迫しており、前月までは価格転嫁に慎重な姿勢を取っていたが、収益確保と安定供給の両立を図るため11月より一部商品の価格改定を実施する。
繊維・同製品 (織 物)	原糸の価格や入荷状況が改善され価格転嫁も進んでいる一方、物価高騰や燃料価格の高止まり等による家計への影響が大きく、消費者の購買意欲が減退している。
繊維・同製品 (織 物)	多くの外国人観光客が訪れているものの、当産地の織物製品に触れる機会が少なく購入には至っていない。外国人観光客に製品の良さを伝えるPR活動を強化する必要がある。
木材・木製品製造	前年同月に比べ売上は65.6%増、景況感は36.7%好転したが、数値の改善は昨年が例年以上に落ち込んだことが要因であり、当月の売上はピーク時の6割程度にとどまる。
家 具 製 造	住宅業界は現状、明るい兆しは見られない。
窯業・土石 (砂 利)	地域により需要量に差があり、全体としては前年同月と比べ売上は▲5%、景況感は▲10%となった。今後リニア工事が進めば需要は増加する見込みだが、大幅な増加にはまだ時間がかかる。他の工事については例年並みの状況が続く見込み。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上は18%増加した。前月に引き続きバージン材の売上は順調に推移してはいるものの再生材の出荷・受入状況に停滞が見られるため、再生材の値下げ等価格検討の余地がある。
一 般 機 器 (業務用機械器具製造業)	休みが多かった前月に比べると受注量は改善しているが、前年同月と比べ売上は▲15%、景況感は▲20%となった。一方、世界情勢を踏まえると先行きは不透明な状況が続くと予想される。
電 気 機 器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上は15%増、景況感は5%好転した。来年6月に予定されている変圧器の基準変更に伴い現行品の在庫が枯渇しつつあるため、年度末の受注に影響が出ている。
電 気 機 器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上は▲10%、景況感は▲10～15%と、半導体業界はAI関連を除いて低迷、半導体製造装置も来年まで低迷が続く見通し。一方で防衛関連の業界は堅調で見通しも明るい。 組合員は車、半導体、プレスなどの業種が多いため、組合全体で先行きを不安視している。
宝 飾 (研 磨)	地金価格の上昇により取引先の製作本数が減少したため、前年同月と比べ売上は▲30%となった。
宝 飾 (貴金属)	前年同月と比べ景況感は▲50%となった。材料費の高騰によって商品を思うように製造できない状況である。

● 非 製 造 業

卸 売 (ジュエリー)	金価格は¥20,000/g（前年同月比153%）に近づき、プラチナも¥8,800/g（前年同月比166%）と高止まりしている。こうした地金価格の高騰により製品価格の上昇や受注量の減少に歯止めがかからず、操業度・仕事量の低下を招いている。個人事業者を中心に経営悪化が見られ始めている。
小 売 (青 果)	暑さによる食欲不振で需要減少が起きており、前年同月と比べ売上は▲8.7%、収益状況は▲5%となった。シャインマスカットは安値で推移し売行きが順調である。
小 売 (電気機械器具小売業)	ガソリン代や電気代などの経費増加が利益を圧迫しており、前年同月と比べ売上は▲3%、収益状況は▲8%となった。家電小売業界では、ここ数か月にわたり前年割れの状況が続いている。

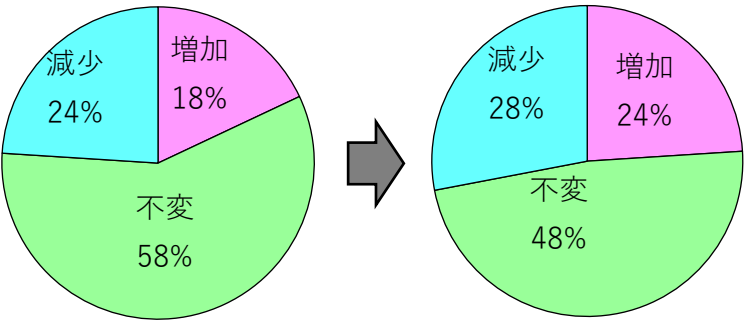
小 売 (ガソリン)	原油価格、為替は小幅で推移し安定している。 自民党の高市新総裁誕生により暫定税率廃止の議論が早まる気配がある。暫定税率の廃止は業界として従来から主張してきたことであるが、税額分25.1円の引下げに伴い在庫調整や価格設定など懸念事項が多く、全石連を中心に国へ必要な措置を要望している。
商 店 街	国は賃上げ施策を進めているが、現状賃上げできる状態にない。
商 店 街	物価高騰の影響で来街者数が減少、個店の売上は悪化している。加えて大月駅周辺に有料駐車場が乱立している影響で組合が運営する駐車場の利用者も減少している。
宿 泊 業	前月に引き続きビジネス客・旅行者が多く、高い施設稼働率を維持している。今後、秋の観光シーズンに向けさらなる宿泊客の増加を期待しているが、一部施設ではスタッフ不足が解消されず対応に苦慮している。
宿 泊 業	関西万博の影響などから旅行需要が関西方面へシフトしたとみられ、前年同月と比べ売上は▲1.7%となった。
産業廃棄物処理	業界では脱炭素と循環型経済の実現に向け、廃棄物を単に処分だけでなく、廃棄物を原料として固形燃料を製造するなどリサイクル製品の生産にも取り組む事業者が増えている。
一般廃棄物処理	ごみ収集車両について、車両の架装に時間を要するため新車発注から納車まで2～3年かかる状況が常態化している。納車待ちの期間、収集事業者は既存車両の使用を余儀なくされるため、故障・消耗頻度増加による修繕費の増大に苦慮している。
警 備 業	契約先との値上げ交渉が難航しており、契約金額が実際の労務単価に見合っていない。警備員の高齢化により退職者は増加する一方で新規採用者は減少している。
自動車整備業	車検台数について、普通車11,882台（昨年同月▲419台） 軽自動車9,408台（昨年同月▲56台）※集計の都合上、8月末数値
建 設 業 (総 合)	9月の県内公共工事は前年同月比で件数は+4.0%、請負金額は+4.8%それぞれ増加した。9月末累計では、件数は▲5.5%となったが、請負金額は+1.1%増加した。
建 設 業 (型 枠)	前年同月と比べ売上は▲5%、景況感は▲10%となった。民間工事・公共工事とも不調が目立ち、着工予定の工事遅れや仕事量の減少により先行きへの不安を抱える組合員が多い。一方で、材料費の高止まりや人件費の高騰で、請負単価を下げることはできない。
建 設 業 (鉄 構)	前年同月と比べ売上・景況感ともに▲5%となった。全体的に仕事量が少なく、材料高騰により契約金額が折り合わず延期となる物件も見られる。その影響で購買意欲が弱く、H形鋼など材料価格の下落が見られる。約2年後には延期物件の消化により状況が改善されることを期待している。
設 備 工 事 (電気工事)	人員確保が課題であり、組合では青年部の協力を得ながら人員確保の方法を模索している。
運 輸 (バ ス)	人員不足が改善されない限り、今後の見通しも良くない。
運 輸 (トラック)	燃料価格が高止まりしている一方で、運賃は据え置かれている。 残業規制や貨物自動車運送事業法の改正など対応が必要な課題が山積しており、今後も厳しい経営状況が続く見込み。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
対前年・前月・当月	2024年9月	2025年8月	2025年9月	2024年9月	2025年8月	2025年9月	2024年9月	2025年8月	2025年9月
売 上 高	▲ 20	▲ 25	▲ 15	3	▲ 27	3	▲ 6	▲ 26	▲ 4
収 益 状 況	▲ 15	▲ 15	▲ 15	3	▲ 20	0	▲ 4	▲ 18	▲ 6
景 況 感	▲ 20	▲ 25	▲ 30	▲ 3	▲ 13	▲ 10	▲ 10	▲ 18	▲ 18

※(（良数値÷対象数）×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売 上 高（前年同月比）

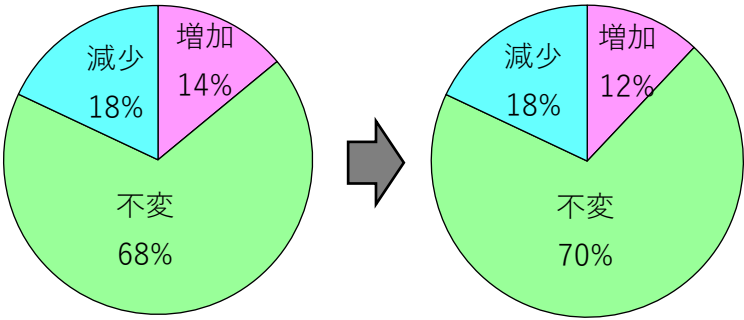


令和6年9月

令和7年9月

- ・D I 値 ▲4 （前年同月比 +2 ポイント）
- ・業種別D I 値
 - 製 造 業 ▲15 （前年同月比 +5）
 - 非製造業 +3 （前年同月比 ±0）
- ・前月比D I 値
 - 製 造 業 +10
 - 非製造業 +30

収益状況（前年同月比）

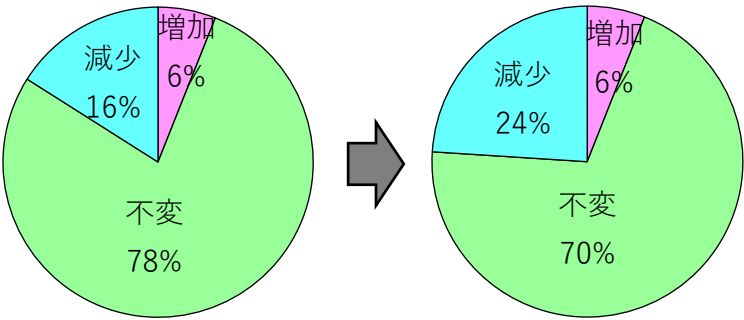


令和6年9月

令和7年9月

- ・D I 値 ▲6 （前年同月比 ▲2 ポイント）
- ・業種別D I 値
 - 製 造 業 ▲15 （前年同月比 ±0）
 - 非製造業 0 （前年同月比 ▲3）
- ・前月比D I 値
 - 製 造 業 ±0
 - 非製造業 +20

景 況 感（前年同月比）

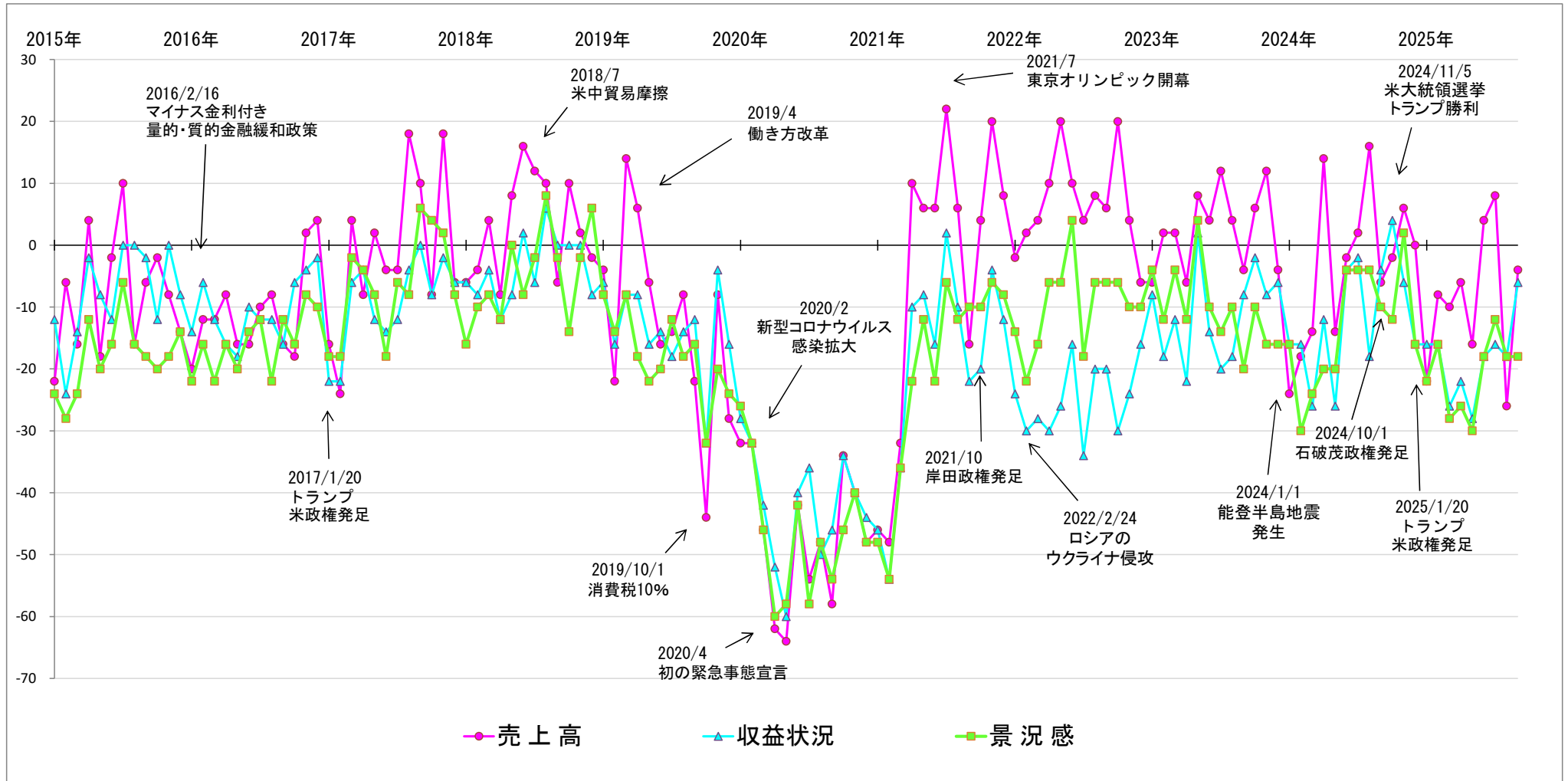


令和6年9月

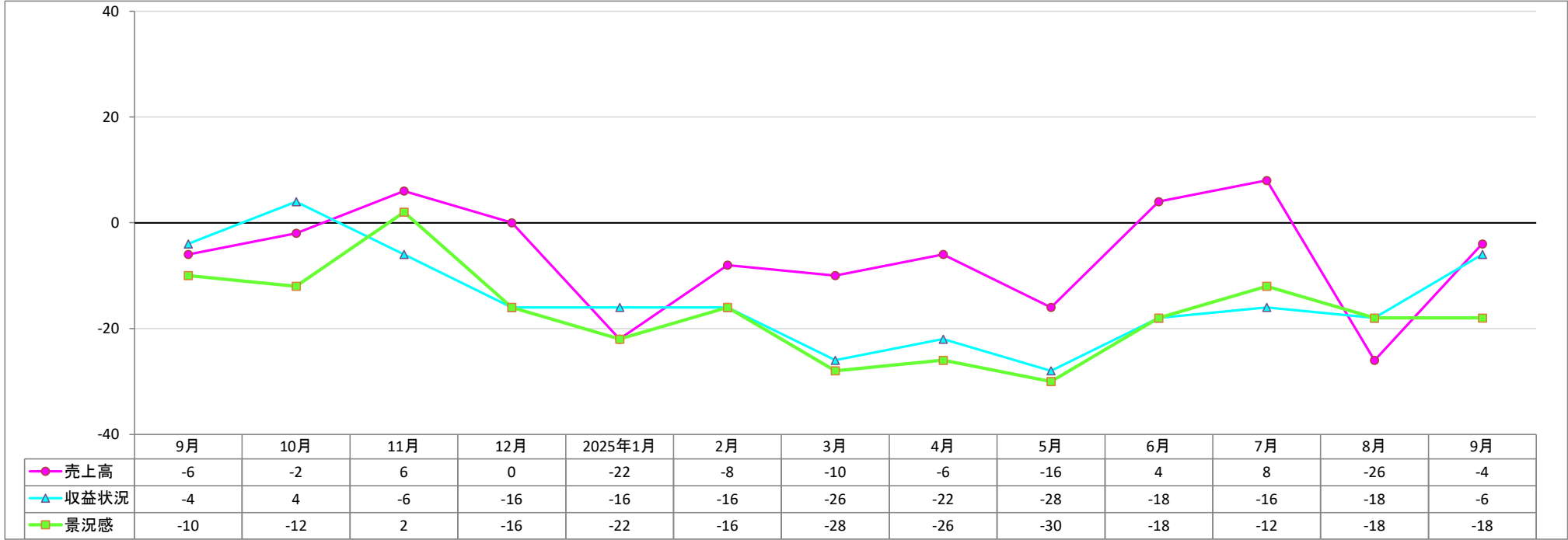
令和7年9月

- ・D I 値 ▲18 （前年同月比 ▲8 ポイント）
- ・業種別D I 値
 - 製 造 業 ▲30 （前年同月比 ▲10）
 - 非製造業 ▲10 （前年同月比 ▲7）
- ・前月比D I 値
 - 製 造 業 ▲5
 - 非製造業 +3

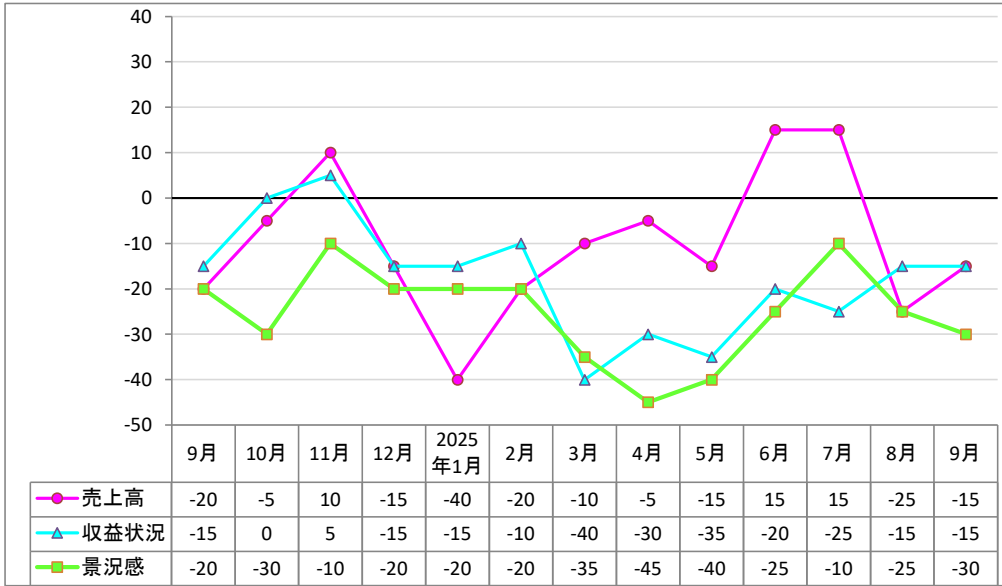
D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月～2025年9月



D.I値の推移②(過去1年間) 2024年9月～2025年9月



【製造業】



【非製造業】

